

子どもたちに体を動かす楽しさを！ 斎川小学校で体力向上事業体操教室

6月28日、体力向上事業体操教室が斎川小学校(沼田敦子校長)で行われ全校児童34人が参加しました。講師は、体操競技者として数々の国際大会に日本代表として出場し活躍された渡邊光昭さん。この日は、マット運動、跳び箱、鉄棒の実技指導や体操のおもしろさについて講話が行われました。渡邊さんは「何かひとつでも、おもしろいことや楽しいことを見つけて、それを続けていくことが良い結果に結び付きます」と児童にエールを送りました。参加した児童は「コツが分かって楽しかったです」と笑顔で話してくれました。



▲楽しそうに鉄棒を行う児童

家族・地域みんなで園庭を芝生に！ 第二児童館の園庭で芝生苗の植え付け作業



▲熱心に芝生苗の植え付けを行う参加者

6月18日、第二児童館・白石第二小学校放課後児童クラブの児童と保護者やどんぐり母親クラブの会員、田町尽くし会の会員など約40人が、第二児童館で芝生苗の植え付けを行いました。この芝生苗は、昨年度に先行して実施した北保育園の芝生から株分けし、自分たちで育てたもので、この日は、芝生苗約1,400ポットを350平方メートルの園庭に植え付け。参加した児童は、「早く緑っぱいになってほしい」と話してくれました。

今後の芝の管理などは保護者や地域の方にお願ひし、これからも地域全体で子育てを支えていきます。

心も体もバランスが大事 白石第二小学校に一輪車を寄付

6月21日、白石北ロータリークラブ(山田卓郎会長)の皆さんが白石第二小学校(鈴木登志彦校長)を訪れ、一輪車20台を寄付しました。山田会長は「一輪車は平衡感覚を養うのに最適。大切に使って、大いに楽しんでください」とあいさつ。児童を代表して、一輪車クラブの水上美月さん(6年)が「児童全員で大切に使用させていただきます」とお礼の言葉を述べました。児童たちは早速、一輪車にまたがり白石北ロータリークラブの皆さんに運転を披露。これまで同小には一輪車が6台しかありませんでしたが、多くの児童が利用できるようになりました。



▲山田会長(写真右)から児童に一輪車が手渡されました

白石の伝統食を未来に残したい 壽丸屋敷で笹巻き作り



▲ヘルスメイト白石の皆さんと一緒に楽しく作りました

6月11日、旧暦の端午の節句にちなんだ「笹巻き作り」が壽丸屋敷で行われました。「白石の伝統食である笹巻きを後世に残していきたい」との思いから、ヘルスメイト白石(立田ふち子会長)と白石ライオンズクラブ(岡崎敏紀会長)が共同で開催。市内外から約50人が参加したほか、今年は、福島県南相馬市から避難している方々も「白石の文化を体験したい」と参加し、もち米を笹で巻き、い草で縛る作業を体験しました。

笹巻き作りの後は、笹巻きとゆでたての温麺を参加者みんなでおいしくいただきました。

みんなの力できれいなまちに！ 孝子堂清掃活動

6月26日、大鷹沢第1自治会(三澤佑二会長)の20人が孝子堂と八枚田、その周辺道路で清掃活動を行いました。三澤自治会長は「気持ちよく歩行できるよう、気を付けて美化活動を行いましょう」とあいさつ。参加者は小雨の降る中、草を抜き取ったり、刈り取ったりするなど、熱心に作業に取り組んでいました。

この活動は、毎年行われている伝統行事。地域への感謝の気持ちを清掃活動の継続という形で表しています。参加者は「こうした活動や地域の伝統をこれからも受け継いでいきたいです」と話していました。



▲小雨の降る中、清掃活動を行う大鷹沢第1自治会の皆さん

ふれあって 感謝の笑顔 福岡中学校の生徒が福祉体験学習



▲笑顔で七夕飾りを手作りする施設利用者と生徒

7月6日、福岡中学校(大町勉校長)の1年生47人がグループごとに市内の高齢福祉施設5カ所を訪問し、福祉体験学習を行いました。特別養護老人ホーム八宮荘では10人が施設利用者10人と七夕飾りを一緒に作りました。生徒と利用者がふれあいながら七夕飾りを手作りし、心をつむぐ七夕に復興への願いを込めました。利用者は「たくさん話をしてることができて元気をもらいました」と笑顔を見せ、参加した生徒も「始めは緊張しましたが、声掛けをしてうれしそうな笑顔を見ると、自分もうれしくなりました。貴重な経験です」と話していました。

地域みんなで農地・水・環境を守る 山根地域環境保全隊による環境美化活動

6月19日、山根環境保全隊(山谷康一代表)が地域の景観整備を図るため、休耕田に花の苗を植えました。この日は、自治会や青年会、子供会、婦人防火クラブ、防犯交通山根分会の皆さん約100人が参加。マリーゴールドやサルビアなど約1,500本を約600平方メートルの休耕田に植えました。この活動は、平成19年度から始まった農林水産省の「農地・水・環境保全向上対策」制度を活用したもの。農地や農業用水などの資源を守るために「地域みんなで取り組んでいこう」とするものです。農地を未来につなぐために、地域のつながりが大切となっています。



▲子どもから大人まで、元気に花を植えました

思いやりの心を学んでほしい 越河小学校で人権教室



▲読み聞かせを通して、思いやりの心を学ぶ児童

6月17日、人権擁護委員による「人権教室」が越河小学校(紺野壽雄校長)で開催されました。同小の3年生12人、4年生12人を対象に行われた教室。白石市・蔵王町・七ヶ宿町で活動する人権擁護委員8人が、紙芝居や読み聞かせを通して、「人権とは人が誰でも持っている権利であり、相手の気持ちを考え、思いやりの心を持つことが大切」と話しました。また、同地区の委員である大久保正敏さんが、牛の飼育を通して「命の大切さ」を講話。児童たちも友達との体験談を話すなど、思いやりの心や命の大切さを真剣に考えていました。